



月刊 第 576 号

夏の花

凌霄花と百日紅

春の花は白や黄色のものが多く、いと聞いたことがあります。確かにコブシ、マンサク、水仙菜の花と春を代表する花々は白や黄色が多いようです。

梅雨明けとともに照りつける日射しの中で咲くノウゼンカズラの朱色、百日紅の赤はいかにも夏の花の印象で、輝く夏の陽を待って一気に自己主張と言った感じを受けます。

今年特別花のつきがよいよ

七月初旬に金沢まで北陸自動車道を往復した際ふと気がついて注意深く観察したのですが、この道路沿いも小高い場所は海が近づくと合歓の木が現れ、内陸に入るとこの木の姿が見当らな

いと言った具合で海風の峠好きらしい合歓の花の一句が出来た次第です。しかし此の度の七・一三梅雨前線水害の惨状は大変なもので被災された方々にはほんとうに日々難渋の生活とお察し申し上げる次第です。

避難勧告の出された地域に寺泊の町名も報じられたことで随分方々から御心配やお見舞の電話を頂戴し感謝いたしております。

町内十数ヶ所に土砂崩れがあり、交通不能の道路や数軒の人家に被害が及び一時避難と言う事態も生じたことですが、堤防決壊による直撃を受けた地域に

うで目につきます。又海風の通る峠道では合歓の花が満開で、絹糸を束ねたような繊細な白とピンクのグラデーシヨンの色合いの花が大きく広がる枝一杯に咲き競って、まさに吹き寄せる海風を楽しんでるように揺れています。

地層的には寺泊層と言ひ大変な層のある地層の上に位置しており、この地層は世界的にも有数の地震に強い地層で、そのせいで地震情報では近隣町村の名前が出て寺泊の地名はほとんど出たことがないのではないのでしょうか。ただ所々に荒れ跡断層があつて特に今度も崩落して交通不能になった水族館前から友年方面への道が危険箇所と

比べれば不幸中の幸と言つてよろしい(直接被害を受けられた方には申訳けない表現になりますが)のではないかと思います。地域的に見て寺泊と言う地は割合自然災害の少ない所ではないかと思ひます。



兎角雨にたたられ勝ちな海開きの行事。今年空梅雨かと思われるような7月初旬海難供養で開幕。



海難供養につづいて安全祈願と商売繁盛を願つての神事がつづく。



穏やかな海をバックに商工会女性部のフラダンスチームが華やかに踊りを披露。日頃の練習成果は如何。



大町バス停は寺泊の産業の一つに成長した遊漁船釣船の発着地と隣接。公衆トイレが急ピッチで建設中。



全島一市の町村合併なった佐渡市であるが、両泊大会は継続。歓迎に応える旧赤泊石塚村長の挨拶。総勢130名が来町。



フラダンスチームに負けじとこちらは若さを売り者元気一杯のソーランWAVE寺泊とヨサコイ真瀬。砂浜一杯にエネルギーを爆発。

百年近く前には上片町の私の寺の上手寄りの門前屋敷と言われている地域が大きな山崩れに合っていたことがあるのです。ここには生福寺、長善寺の二ヶ寺が並んで建てたのですが山崩れで崩壊しそれぞれ現在地に移転しその後地盤が安定してからその後地に十数軒の民家が建てられ門前屋敷の名前がついたと言われてオクリ(庫裡)などの屋号の家もあったのでしよう。その後明治時代に大河津方面への道路が開かれ(現寺泊長岡線)新道と言うわけです。

頑強な地層なのですが、空気にさらされると灰状に分解してしまおうと言う難点があつて、時にその弱点をさらけ出してしまふことがあるのですが、釣り餌の岩虫を採った経験のある方は良くご存知だと思つていますが、金山方面で海中にころがっている岩を岸へ引き上げてタガネとハンマーで割ると中に岩虫が入っているわけですがその残骸の岩が翌年になると影も形も無くなる、即ち空気に曝らされて粉々に消滅すると言つてわけは

ブルーベリー農園

さとうのぶひと

寺泊は、海水浴を潮湯治と言った時代から観光立町の先進地でした。海と魚という天然資源に加え、史跡の数々。水族館の歴史は古く、現在の水族博物館は三代目になります。その後、行楽意識の高まりの中で民間の美術館も出来ました。しかし、海沿いの「線の観光」に力点が置かれ、内陸部を取り込んでいく「面の観光」が視程に入っていないかのように思われます。箕輪のブルーベリー農園の誕生は、発想の転換になるかも知れません。

ブルーベリー農園で、ちょうど居合わせた観光協会の西山さんからお話を伺うことが出来ました。寺泊観光を内陸部との連携で考えていくなら、まず農産物。それをいかに観光事業に組み込んで売り出せるか。数少ない沼地の保全と環境整備。

お寺めぐりツアー。——西山さんの頭の中にはいくつもの構想があるようでした。先月号で、寺泊に出来た海洋深層水の大浴場について書きました。海洋深層水についても少し書き加えましょう。寺泊の大浴場は「佐渡海洋深層水風呂」とうたわれている通り、佐渡沖四キロメートル、水深三三〇メートル付近から取水され、佐渡汽船で寺泊港まで運ばれています。日本で海洋深層水を活用する試みは、最初高知県が始まりました。二番目がお隣の富山県です。富山県は最初、船の上から汲み上げていましたが、能率が悪く、やがて陸上からポンプで



海岸道路国道402号線が水族館前で崩落、通行不能となり、復旧には数日を要する結果となった。



役場山手側の明治天皇行在所の土手が崩れ四軒の人家に一時避難勧告が出された。



402号線沿いの山田地内の崖が崩れて海岸まで土砂が押し出され、ここも通行不能となった。

汲み上げる方式に切り換えまし
た。富山湾の滑川漁港から日本
海に向かって太さ三〇センチの
パイプが二本伸び、その総延長
は二七〇メートル、取水口の
水深は佐渡沖深層水と同様、約
三三〇メートルです。

日本海全体が浅い海峡に囲ま
れ、排水口が上の方だけにある
巨大なプールのような構造をし
ています。だから、海流によっ
て上の方は入れ替わりますが、
下の方は入れ替わりにくく、海
水の循環は五〇年から一〇〇年
の周期だそうです。富山湾は、
深いところで二〇〇メートル
にもなります。ここにウラジオ
ストック付近で冷やされた海水
が溜まります。季節風で蒸発し、

塩分濃度の高くなった海水は比
重が大きくなるので、深海へと
沈殿していきます。

表層水は、水温が季節によっ
て八度から三〇度と変動しま
す。深層水は低い状態で安定し
ています。富山湾の場合、年間
を通して二度から三度だそうで
す。これが太平洋側の深層水に
なると、夏は一〇度くらいに上
昇するので、安定した状態とは
言えません。富山湾の深層水は、
栄養価も温度も利用しやすい環
境にあります。

富山県ではこの海洋深層水を
使って「ます寿司」の材料であ
るサクラマスの養殖を行ってい
ます。サクラマスは、水温が一
八度以上になると病気にかかり
やすく、海洋深層水を活用する
ことでその難点を克服したので
す。

滑川市にある取水施設には、
ちようどガソリンスタンドのよ
うに、蓋をした蛇口がいくつも
並んでおり、蓋を外せば、いつ
でも海洋深層水が流れ出るよう
になっているそうです。むろん
有料で、利用料は滑川市の場合、
一リットル一円です。現在、ビー
ル会社、化粧品会社などが活用
していますが、今、業界の注目
を集めているのがボトル・ウオー
ターです。

もちろん海洋深層水は海水で
すから、そのまま飲料水にする
ことはできません。イオン交換
電気透析装置という分離装置に
かけて脱塩します。こうして脱
塩された海水に、従来の地下水
をブレンドし、ミネラル・ウオー
ターとして市場に出ているので
す。富山県にはこのようなミネ
ラル・ウオーターのメーカーが
五社あるそうです。

佐渡沖の海洋深層水もボトル・
ウオーターとして、寺泊で売り
に出されています。こちらは脱
塩しただけの、天然の深層水で
す。

「日本の名水百選」が観光事
業と結びついて成功を収めてい
ます。佐渡沖の深層水や富山湾
の深層水が「日本の名水」にな
る日も近いような気がいたしま
す。(中村康彦「ウオーター・
ビジネス」岩波新書、二〇〇四

誌代御後援(敬称略・順不同)

東京都	小林六三郎	金五千元
〃	渡辺 弘	金五千元
〃	佐野喜久雄	金三千元
〃	寺坂 一清	金三千元
〃	礼木 郡二	金三千元
〃	田村 精	金五千元
茨城県	長谷川 勉	金三千元
〃	阿部トミエ	金三千元
横浜市	小林 喬嗣	金一万元
川口市	平石美和子	金三千元
〃	阿部 昌純	金三千元
松戸市	摩庭 ハナ	金三千元
八王子市	石井 光枝	金三千元
長岡市	松山 エイ	金三千元
寺泊町	小黒 太郎	金三千元

小波会七月句会詠草

兼題 土用波・サン格拉斯他

今生まる

波に乗りたや土用波

内藤 蓮子

土用波

つきつきにくだだけ泡立てり

江原 汀子

サザエ岩

いわれる辺り土用波

水沢 蕉子

さりげなく

別れとなるや土用波

大越 碧水子

若きらの

サーフィン乗せて土用波

斉藤 紫苑



片町照明寺庫裡の解体新築工事が始まった。
観音講では大勢の出仕僧侶を迎える為の建物が必要で大工事となる。

サン格拉斯

少し濃い目に紅を引き

サン格拉斯

人の心を隠しけり

外山 海子

サン格拉斯

見上げる先にエベレスト

竹内 霍山

ビル群を

映して黒きサン格拉斯

小形 美代

持て成しの

西瓜冷してありにけり

加勢 白汀

初夏の空

吟詠はるか鶴ヶ城

能登 頑牛



箕輪地内にブルーベリー農園が開園。
ケーキ類喫茶や軽食が楽しめる寺泊の新スポット。

ひともの

振花広き競技場

小島 温石

雷神の

一閃佐渡を真二つ

中村 流楓

能楽師

広ききたいのすずしげに

小島 冬扇

今月是他町村との交流イベントの月でした。

初旬には伊勢崎市(姉妹都市)の餅の里での文化交流会や町芸

術文化協会を中心に文化芸術芸能や囲碁将棋を通して親善を深

め、中旬には恒例の両泊大会が

佐渡の方々を迎えて催され、同

じく子供交歓会が夏休みを待っ

あとながき



寺泊海岸のあちこちに思いがけない花園が出現する。
般入した土に混ってきた種が自然発生。
振花の群生もその一例。

て楽しく開催された。

両泊大会は戦中一時期中断されたものの幾度かの困難を乗り越って、全島一市となった今年も変ることなく運営された伝統ある対外交流のイベントである。

一昨年の東京寺泊会で講師に招かれ「原田節」と言われる弁舌さわやかな講演をして下さった分水町出身の原田泰夫九段が七月十一日逝去された。本人の希望で東京中野宝仙寺での葬儀に十三日の豪雨の中出向いた。

長岡駅のコンコースの駐車場は満車で危機一髪乗り遅れるところであった。中原誠将棋連盟会長や分水小林町長などが悼辞を述べられた。昨年盤寿と言う棋士特有の祝賀の宴を持たれて間もない享年八十二歳の惜別。

毎月二十日発行
寺泊ふるさとだより

編集人 中 村 興 樹

発行人 新 潟 県 寺 泊 町

ふるさとだより

郵便番号 九四〇一五〇二

ダイヤル局番 〇二五八七五

電話 二〇二九九番

振替番号 〇〇六二〇三二五七四五

印刷所 吉野印刷株式会社